

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる《NGU 教養スタンダード科目》を開設しています。《NGU 教養スタンダード科目》は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説1」「キリスト教概説2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

情報に関する科目

情報教育の充実、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現上級」も学修することができます。

社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の4区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修

文部科学省は「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は「Center of Community」の略で、「地域再生の核となる大学」という意味です。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内の学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります。

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」				
② 課題解決型授業（PBL）				
③ 地域志向型科目（各学部専門科目）				
④ 教育イベント「地域フォーラム」				

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「**まちづくり提言コンペ**」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・歴史観光・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開設するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」で継続受講することも可能です。
- ③ 各学部の専門科目において、地域を学修対象とした**地域志向型科目**を開講しています。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。専門科目としての演習科目やゼミなどで学修・研究した成果を広く地域へ発信します。

初級まちづくりマイスター

COC 事業で取り組んでいる 3 つのまちづくり分野（地域商業・歴史観光・減災福祉）ごとに COC カリキュラムで開講している「まちづくり学」「まちづくり演習」科目の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

COC 事業で初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

現代社会学部 現代社会学科

教育目標

私たちの社会は、いま、安定と成熟のなかにありながら複雑化・多様化が進み、その持続可能性を問われて大きな転換に向かっています。現代社会学部は、こうした現代社会が求める幅広い基礎的教養と現代社会がもつさまざまな側面を洞察し、的確な判断ができる専門的知識、ならびに現代社会を生き抜くために必要な課題発見・問題解決型能力と積極的な行動力をもつ人材を養成することを教育目標とします。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

現代社会学部現代社会学科の教育目標は、「現代社会が求める幅広い基礎的教養と現代社会がもつさまざまな側面を洞察し、的確な判断ができる専門的知識、ならびに現代社会を生き抜くために必要な課題発見・問題解決型能力と積極的な行動力をもつ人材を養成すること」です。

現代社会学科に所属する学生は、上記の教育目標を達成するために設定された学科のカリキュラムのもとで履修し、学修することをとおして以下のような能力が獲得できます。これにあわせて、卒業に必要とされる所定の単位数と要件を満たした学生には、現代社会学部から「学士（現代社会）」の学位が授与されます。

知識・技能

- ① 社会学・経済学・法学など現代社会を理解するために必要な基礎知識とそれらを包み込む幅広い基礎的教養を身につけることができる。
- ② 現代社会における〈人間社会と心理〉、〈経済社会と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉という4つの基本分野に関する専門的知識を修得できる。
- ③ 現代社会の動きを的確につかみ、それをリサーチしてレポートをまとめることができる。
- ④ 現代社会やビジネス世界で求められるプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけることができる。

思考力・判断力・表現力

- ⑤ 現代社会がもつさまざまな側面にアプローチし、それらを洞察し、的確に判断できる。
- ⑥ 現代社会を生き抜き、その課題や困難に立ち向かうことのできる課題発見・問題解決型能力を修得できる。

主体性・多様性・協働性

- ⑦ 多様な社会で自分と他者を生かせるよう積極的に行動し、社会や地域に貢献できる。
- ⑧ 「社会を知り人を想う」ことで新たな社会を創造しようとする精神を身につけることができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

上記のような教育目標のもと、ディプロマ・ポリシーで設定した能力を獲得させるとともに「学士（現代社会）」の学位を取得させるために、以下のような教育内容、教育方法および学修成果の評価に関する基本方針にもとづき、現代社会学科のカリキュラムを編成し、授業を実施します。また、カリキュラムの体系性ならびに各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応関係についてはカリキュラム・マップなどで明示します。

教育内容

- 1) キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成、社会生活に必要な知識や技能の修得、成熟した市民として必要な教養の獲得を目標とした《NGU 教養スタンダード科目》を学びの基礎とし、さらに現代社会をよく知り、現代社会を調べ、課題を発見する力を養うための基礎づくりとして《専門基礎科目》を厳選して配置します。
- 2) 現代社会学科を構成する基本分野として、〈人間社会と心理〉、〈経済社会と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉という4つを設定し、これらをもとに《基幹科目》と《展開科目》に必要な専門科目をバランスよく配置してカリキュラムを編成します。
- 3) 《基幹科目》には、社会学ならびに経済学の主要分野を念頭においたうえで、上記のような4つの基本分野からそれぞれに厳選した専門科目ならびに現代社会の問題発見や課題解決に活用できる実践的な知識や能力を身につけることのできる「プロジェクト演習 A・B」を配置します。
- 4) 《演習科目》、「プロジェクト演習 A・B」および「社会体験インターシップ」などをとおして、座学だけにとどまらず、関心の高い分野に対し、課題発見から解決方法そして実践までを一貫しておこなう「アクティブな学び」の場や機会を数多く提供します。

教育方法

- 1) 現代社会学科の教育目標を確実に達成し、カリキュラムでの学修成果が学生一人ひとりに実践的な力となって身につくように段階的・系統的な学修を基本としています。そのため、1年次の春・秋学期から4年次にかけて《専門基礎科目》、《基幹科目》、《展開科目》および《演習科目》を各段階に応じて適切に配置するとともに、系統的学修のガイドとなる3つの履修モデルを提示します。
- 2) 基本となる段階的・系統的な学修とともに、コンパクトな履修パッケージとして「現代社会を学ぶアイテム」を7つ用意することにより、具体的なテーマや課題の提示を通じてさまざまな角度からの“現代社会”への積極的なアプローチを促します。
- 3) 「PBL 型授業」を積極的に活用し、現代社会の現場を体験できる多彩なフィールドワークを提供することで課題発見・問題解決型能力と積極的な行動力を育成します。
- 4) 4年間にわたる一貫した少人数編成の《演習科目》により、学生一人ひとりの個性に合わせた、ていねいな学修・生活指導のできる態勢を確保します。また、定期的に「履修ガイダンス」や学修のためのガイダンスを実施し、学生が期待どおりの学修成果を達成できるようきめ細かい履修指導をおこないます。

学修成果の評価

- 1) 授業科目の評価は、原則として平常点および試験などの総合評価によりおこなわれます。
- 2) 思考力・判断力・表現力や主体性・多様性・協働性については、それぞれの授業科目のなかで必要に応じて達成度指標を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加えます。とりわけアクティブ・ラーニングでは、ルーブリックでの評価を行います。
- 3) 「現代社会演習 1・2」における研究成果である論文の作成・発表を「卒業研究（必修）」として評価するとともに、これを最終的な学修成果として重視し、ディプロマ・ポリシーに適合するか否かについて評価します。

アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

求める学生像

現代社会学科では、建学の精神「敬神愛人」のもと、この学科の教育目標を理解し、それに向かって意欲的に学び、かつ積極的に行動する人、具体的には、以下のような学生を広く受け入れます。

- 1) 安定と成熟のなかにありながら複雑化・多様化が進み、その持続可能性を問われ大きな転換に向かっている現代社会に広く関心をもっている学生
- 2) 現代社会が求める幅広い基礎的教養と現代社会がもつさまざまな側面を洞察し、的確な判断ができる専門的知識を合わせてバランスよく身につけたいと望んでいる学生
- 3) 現代社会を生き抜くために必要な課題発見・問題解決型能力と積極的な行動力を身につけたいと考えている学生
- 4) 獲得した知識や能力を生かして社会や地域に貢献しようと志し、社会に新たな価値を創造して次代の社会を切り拓こうとする学生

入学時までに身につけるべき知識、能力など

- 1) 高等学校の教科において、現代社会を学ぶための基礎として必要となる基本的な知識や技能
- 2) 基礎的な知識や技能にもとづき、現代社会に関する自分の考えをまとめ、他者に伝えるために必要な思考力・判断力・表現力
- 3) 現代社会に関わるさまざまな学修や活動の場と機会において、主体性をもって多様な人びとと協働して学ぶ態度

入学者選抜

現代社会学科は、大学入学時までに培われた確かな基礎学力、この学科に関わる適性、多様な学習や活動で身につけた能力や意欲などを、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本方針とし、以下のような入学試験を実施します。

1) 学力試験

本学独自の学力試験、または「大学入試センター試験」の成績にもとづき、この学科での学修に必要な基礎学力を有すると評価した者を入学者として選抜します。

2) 推薦試験

書類審査、面接、小論文などにより、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格など）の状況、この学科に関わる適性や意欲などを総合的に評価し、入学者を選抜します。

3) AO 試験

第1志望の者を対象に、書類審査（調査書・事前課題）ならびに授業・討議・試験の内容や成果により、この学科での学修に必要な基礎的な理解力・考察力・協調性・表現力などを総合的に評価し、入学者を選抜します。

カリキュラムの概要

現代社会学部現代社会学科のカリキュラムは、《NGU 教養スタンダード科目》と《専門科目》で構成され、また《専門科目》の中に《専門基礎科目》、《基幹科目》、《展開科目》、《関連科目》および《演習科目》という科目群が設定されています。《演習科目》については以下で詳しく説明するとして、ここでは、それ以外の科目群の概要について紹介します。

① 専門基礎科目

この科目群は、現代社会学部で《専門科目》を学修する上で必要な基礎的知識と能力・方法・態度を修得するための6つの《専門科目》で構成されています。「社会学入門」、「経済学入門」、「法学入門」および「地域政策入門」の4科目は、社会学、経済学、法学、政策・地域の各領域から導入科目として厳選したものであり、すべて必修になっています。

また、「現代社会入門」は、専門的な学修に向けた導入として、現代社会を学ぶ意義、ならびに現代の時事問題に関する基礎知識を理解することを目的とした科目であり、「社会リサーチ入門」は、現代社会の現状や課題をリサーチする基礎的な方法や態度、さらに課題発見・問題解決型能力を身につけることをめざした基礎的科目です。

② 基幹科目

この科目群は、その名のとおり現代社会学部の基幹となるもので、カリキュラムを構成する4つの基本分野である〈人間社会と心理〉、〈経済社会と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉から厳選した13の《専門科目》ならびに「プロジェクト演習A・B」で編成されています。これらはすべて選択科目ですが、可能な限り履修し、単位を修得することが望ましい科目に位置づけられています。

「社会学理論」、「家族社会学」および「社会心理学」は、社会学の主要な分野を意識した上で、現代社会学部のカリキュラムに必要な基本科目を厳選したものです。「文化人類学」、「社会政策論」および「経済社会学」は、それらを補完し、人間・政策・経済につながるもので、《展開科目》でより専門的な学修を進めるために必要な基本科目です。「現代経済分析」、「経済政策論」、「現代産業論」および「日本経済入門」は、経済学の基礎や実用的な経済知識を身につけ、産業・企業・政策・地域などについて学修するための基本となる科目です。また、「民法入門」は、社会制度や政策の基礎となる現行法の基礎を学ぶ科目であり、「名古屋都市論」は、本学の名古屋キャンパスが立地し、現代社会学部の主要なフィールドとなる大都市「名古屋」について学ぶ科目です。「社会統計学入門」は、現代社会について、データに基いて分析するために必要な統計学の基礎を学ぶ科目です。

さらに、「プロジェクト演習A」と「プロジェクト演習B」は、現代社会に対する問題意識や研究関心を涵養するとともに、課題発見・問題解決型能力を育成し、かつ実社会の具体的な課題や問題解決に活用できる実践的な専門的知識や能力を身につけることをめざした科目です。

③ 展開科目

《展開科目》は、カリキュラム表で確認できるように、現代社会学部の4つの基本分野、つまり〈人間社会と心理〉、〈経済社会と企業〉、〈社会制度と政策〉および〈社会生活と地域〉によって編成されており、それぞれには、関連する領域から厳選された《専門科目》が配置されています。

〈人間社会と心理〉は、社会の人間の側面や心理的要因から現代社会にアプローチし、人が人間らしく生き、人間の生への配慮や支援のできる社会づくりに必要な知識と能力を身につけるための科目群によって構成されており、そこには、社会学、経済学、経済社会学、社会政策論、社会福祉学および人類学などから採用された11の科目が配置されています。〈経済社会と企業〉は、経済学の体系を念頭におきつつ、成熟した現代社会や社会生活を支える経済を社会の中に位置づけ、そのしくみや働き、その人間社会にふさわしいあり方について学ぶための科目群によって編成されており、なかでも、広く経済社会に関わりのある科目ならびに経済を担う産業や企業に関する科目が多く配置されています。

また、〈社会制度と政策〉は、現代社会を動かす大きな要因として、社会生活を制度的に基礎づける法律と社会を運営する行政や政策、その現実や本来のあり方について学ぶための科目群によって構成されており、なかでも、社会生活を制度的に基礎づける法律に関する科目と現代社会を運営する行政や政策にかかわる科目が多く配置されています（計15科目）。〈社会生活と地域〉は、人間の社会生活やそれを大きく規定する地域から現代社会にアプローチし、社会の中で他者との協働により自分の生活を自分らしく構築し、社会を動かしていく上で求められる知識と能力を身につけるための科目群によって編成されており、そこには、社会学、経済学、法学、社会政策論、人類学、地域政策論および都市政策論などから採用された科目が配置されています。

④ 関連科目

この科目群は、現代社会学部がめざす特別な教育目的のために必要とする《専門科目》によって編成されたもので、そこには、次のような2つのカテゴリーがあります。

〈スキル&社会調査〉には、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させるための「デジタルプレゼンテーション」と「データ表現技法」、「社会調査士」の資格認定に必要な科目、ならびに「スキル開発」が配置されています。「社会調査士」資格の取得について、詳細はP70の5)で説明しますのでよく確認してください。また、「スキル開発」は社会で求められる専門知識や技能の習得を推奨し、単位認定するものです。資格等の難易度に応じて初級、中級、上級があります。「スキル開発」の認定資格や条件についてはP71で説明しますので、よく確認してください。

また、＜留学＆インターンシップ＞には、現代社会学部が推奨する「留学プログラム」での学修を単位認定するための「国際理解 1～8」、ならびに特色あるプログラムとして推進する「社会体験インターンシップ」での学修を単位認定するための「社会体験インターンシップ 1・2」が配置されています。「社会体験インターンシップ」についても、詳細は P69 の 3) で説明しますのでよく確認してください。

1 年生では、「基礎英語 1・2」および「英会話 1・2」が必修科目となっています。2 年生では、各自の希望により、次の 8 つのグループの中からひとつ（2 科目 2 単位分）を選択しますが、卒業要件として必ず単位の修得が求められます。よく考えて科目の選択をしてください。

2 年次にどの科目を履修するかは、1 年次の秋学期に CCS で希望調査をおこないます。教務課より CCS で連絡がありますので、確認漏れがないよう注意してください。

選択必修語学科目一覧（注意：卒業要件として必ず、同一科目の 1・2 の履修が必要）

- | | |
|----------------|-------------|
| ● 実用英語 1・2 | ● フランス語 1・2 |
| ● 情報英語 1・2 | ● スペイン語 1・2 |
| ● TOEIC 英語 1・2 | ● 中国語 1・2 |
| ● ドイツ語 1・2 | ● 韓国語 1・2 |

英語圏への長期留学希望者や、英語のさらなるブラッシュアップを希望する学生は、英語科目（「実用英語 1・2」など）の継続的学修が望ましいと考えられます。英語圏以外の人々の考え方や生活風習について知りたい学生は、他の言語の学修にトライしてみてください。

特色ある教育プログラム

1) 「現代社会を学ぶアイテム」

以下の表が、現代社会学部が用意した、現代社会へアプローチする「7 つのアイテム」と各アイテムを構成する主な科目です。2 年次から 3・4 年次へ、《基幹科目》から《展開科目》へと専門的な学修を進めたり、「プロジェクト演習 A・B」の履修や《演習科目》の所属を選択したりするときに大いに参考にしてください。きっと、あなたらしい新たな学びを発見できると思います。

現代社会を学ぶアイテム	構成する主な科目
＜コミュニケーション＆心理＞ 現代社会は、組織・情報・ネットワークをとおして心理とコミュニケーションにより動かされる。その本質と意味を理解する。	社会心理学、コミュニケーション論、メディア論、産業・組織心理学、集団行動の心理学、カウンセリング論 など
＜ライフプラン＆家族＞ 社会・企業・地域の中で他者と協働して、家族とともに自分の生活を自分らしく構築できる力を身につける。	家族社会学、現代社会と人間、金融論、社会生活と法 1・2、社会保障論、家族と法、セルフプロデュース論 など
＜観光プロデュース＆まちづくり＞ 観光は、訪れる地に光を当て観ること。今、それをめぐって観光地と観光客がまちづくりをプロデュースする。	文化政策論、社会的企業論、メディア論、観光まちづくり論、ひとまちづくり論 など

<ヒューマンケア&共生> これからの人間社会は、ヒューマンケアと共生。人が人間らしく生き、それへの配慮や支援ができる社会づくりへ。	文化人類学、社会政策論、経済社会と倫理、福祉社会論、ヒューマンサービス論、共生社会と法 など
<コミュニティデザイン> 人間の生活や地域にとって大切なコミュニティ。そのかたちや今後のあるべき姿について考え、デザインする。	経済社会学、地域社会と法、地域コミュニティ論、地理学、地誌学 など
<現代企業&イノベーション> 現代の企業は、たえずイノベーションをつづけ、経済や社会を革新する。その源泉・メカニズム・展開・未来を探る。	現代産業論、企業経済研究、ものづくり経済論、起業経営論、企業研究1・2 など
<都市創造マネジメント> 都市：かぎられた地域に人口が集中した場や空間は常に創造的で魅力的。その秘密と経営手法をつかみ取る。	名古屋都市論、現代経済分析、地域経済論、行政学、公共経営論、情報社会論、都市政策論、都市デザイン論 など

2) 現代社会を体験する「アクティブな学び」

現代社会学部では、座学だけにとどまらず、関心の高い分野に対し、課題発見から解決方法そして実践までを一貫しておこなう「アクティブな学び」をカリキュラム・ポリシーとしています。《基幹科目》の「プロジェクト演習 A・B」では、課題発見・問題解決型能力の向上をめざして、学期ごとに現代社会のトピックスをテーマとした課題解決型の演習が展開されますのでぜひ受講してください。また、以下で説明する、3) 社会体験インターンシップや4) 段階的・継続的に開催される教育イベントはもちろんのこと、4 年間をととしての《演習科目》やその他の《専門科目》でも現代社会の現場や地域の実社会をまるごと体験できる多彩なフィールドワークを提供していきますので、積極的にかかわるようにしてください。

3) 「社会体験インターンシップ」

現代社会学部では、現代社会を生きぬく上で求められる積極的な行動力を涵養するとともに、実社会における「就業力」を育成するために、2 週間以上にわたる就業体験を組み込んだ「社会体験インターンシップ」を用意し、参加して実習を終えることのできた学生には単位を付与します。このインターンシップ・プログラムには、A 中長期間型（期間が2 週間を超え1 か月以上にわたり就業体験をおこなうもの）、B インターバル型（同じ受け入れ先で間隔をあけて複数回就業体験をおこなうもの）、C 滞在型（受け入れ先に滞在し、中長期間にわたり就業体験をおこなうもの）という3 つのタイプが考えられますが、いずれの場合でも、インターンシップ実習の趣旨にもとづき、受け入れ先の希望や条件ならびに参加する学生のニーズを勘案し、両者をマッチングさせて各プログラムの詳細を構築し、実施することになります。折にふれて、学生による体験談の発表や受け入れ先の紹介、プログラムの説明や事前研修などの機会を設けるとともに、参加希望者の募集をおこないますので、奮って参加してください。

4) 段階的・継続的に開催される教育イベント

現代社会学部では、現代社会に関する研究意識を高めるとともに、課題発見・問題解決型能力の向上につながるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成するために、学生が主体的に参加できる学部主催の教育イベントを段階的に継続して開催するとともに、それ以外の教育イベントにも学部をあげて積極的に関わっていきます。現代社会学部に入っただけからには、授業科目・ゼミナール・学部で開催される各種教育イベントはもちろんのこと、大学で開催される全学的な教育イベントや学外で開催される各種イベントにも意欲的に参画・参加するようにしてください。

5) 「社会調査士」資格の取得

現代社会学部では、「社会調査士」資格を取得できる指定科目をカリキュラムの中に用意しています。

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象などを捉えることのできる能力を有する「調査の専門家」のことです。現代の社会では、さまざまな社会現象の実態を解明し、問題の解決をはかるため、数多くの社会調査がおこなわれています。「社会調査士」資格は、科学的な社会調査を企画・設計し、実施する知識・技術を身につけていることを認定するものです。「社会調査士」資格をもっているからといって特定の職業に就けるわけではありませんが、科学的な社会調査を担える人材、「調査の専門家」の必要性は企業や自治体などで大変高まっています。社会調査士は、世論・市場動向・社会情勢などを把握するときに調査プランを立て、アンケートやインタビューなどの技術を用いて、調査データを収集・分析し、見解を導き出す専門家です。社会調査士資格を取得すると、社会調査の専門家として、社会調査の企画・設計・実施・分析・報告を主要な業務とする調査研究機関や新聞社・放送局の世論調査部門をはじめ、中央官庁・地方自治体や企業などの関連部門で活躍することができます。

一般社団法人社会調査協会が指定する、①社会調査の基本事項、②調査設計と実施方法、③基本資料とデータ分析、④統計学、⑤量的データ解析あるいは質的な分析、⑥社会調査の実習、に関する科目「社会調査法1」「社会調査法2」「社会統計学入門」「統計学」「現代社会調査」「社会調査実習」の単位を履修すると、卒業時に資格を取得することができます。実習では、調査の企画から報告書の作成までにわたる社会調査の全過程をやり通さなければなりませんが、社会のさまざまな分野や場面で役に立つ資格ですのでぜひ取得に向けてチャレンジしてみてください。

6) 「ピアヘルパー」資格の取得

現代社会学部では「ピアヘルパー」資格を取得できる指定科目をカリキュラムの中に用意しています。

「ピアヘルパー」資格は、他者（仲間）とよい関係を築きながら活動するための基礎的知識・技法が身についていることを認定するものです。ピアヘルパーは、“お互いに助け合える仲間関係”の構築を目指して、「聴く」技法、「伝える」技法、「悩み」の心理学的理解などについて学修します。その意味で、「ピアヘルパー」資格は、大学生向けの初歩的カウンセラー資格ともいえます。ただし、この資格を取得すれば、即座に就職に有利になったり、すぐに職業的カウンセラーになれたりするわけではありません。それよりも、人とかかわるための基本的な知識や技法を学ぶことを通して、自己理解と他者理解を深めることを重視します。そして、企業を対象にした多くの調査結果からも明らかのように、これらは大卒の新社会人に非常に求められている能力です。社会人として積極的に能力発揮したい人や、コミュニケーションや心理、福祉に興味のある人はぜひ取得に向けてチャレンジしてみてください。

「ピアヘルパー」資格を本学で取得するためには、①日本教育カウンセラー協会が指定する「カウンセリング論」「社会心理学」「福祉社会論」の3科目の単位を取得することと、②年1度実施される筆記試験に合格すること、の2つの条件が必要になります。

資格単位認定

学生が主体的に学ぶ意欲を評価することを目的として、「スキル開発初級～上級」を配置しています。学部が指定する資格を取得し、定められた基準をクリアした場合に、本人の申請にもとづき、所定の単位が認定（R 評価）されます。なお、資格センターではみなさんの便宜をはかるために、各種資格講座を学内で開設しています。

1. 対象となる資格など

アイテム	認定する資格・検定名	認定基準	認定科目	アイテム	認定する資格・検定名	認定基準	認定科目
コミュニケーション & 心理	IT パスポート試験	資格取得	初級	ヒューマンケア & 共生	ボランティアコーディネーション力検定	2 級以上	初級
	心理学検定試験	2 級 1 級以上	初級 中級		ガイドヘルパー（移動介護／同行援護／行動援護従事者養成研修課程）	修了者	中級
	基本情報技術者試験	資格取得	中級		介護職員初任者研修課程	修了者	中級
	産業カウンセラー試験	資格取得	中級	コミュニケーションデザイン	ニュース時事能力検定試験	2 級 1 級	初級 中級
	TOEIC Listening&Reading (IP も含む)	600 点以上	中級		行政書士試験	資格取得	中級
ライフプラン & 家族	秘書検定試験	2 級以上	初級		司法書士試験	資格取得	上級
	日本商工会議所簿記検定試験	2 級以上	初級	& イノベーション現代企業	販売士試験	2 級 1 級	初級 中級
	ファイナンシャル・プランニング技能検定	2 級以上	中級		ERE 経済学検定試験または ERE ミクロ・マクロ	B A、A+ S	初級 中級 上級
	社労士試験	資格取得	上級		中小企業診断士試験	資格取得	上級
観光プロデュース & まちづくり	観光英語検定試験	2 級 1 級	初級 中級	都市創造マネジメント	福祉環境コーディネーター検定試験	2 級 1 級	初級 中級
	観光プランナー資格認定試験	資格取得	初級		宅地建物取引士資格試験	資格取得	中級
	旅行業務取扱管理者試験	国内 総合	初級 中級				
	世界遺産検定試験	1 級	中級				
	通関士試験	資格取得	上級				

2. 申請期間

春学期は 6 月、秋学期は 12 月の開講日に申請。

入学前に取得した資格などは、申請を許可しません。申請月以前 3 年以内に取得したものに限りです。

3. 申請期間の特例

最終学年の学生（卒業予定者）に限り、「2. 申請期間」以外に教務課より CCS にて周知される特定の期間において追加申請を受けつけます。

4. 認定

学部において承認された場合、単位を認定します。

5. 成績標語など

単位認定の成績標語は「R」（認定）とします。認定された科目は GPA 算出の対象外となります。

6. 補足事項

認定単位数は、履修制限単位数には含みません。なお、各種資格の申請は各 1 回とします。

演習科目

1) 演習科目（ゼミナール）とは

現代社会学部では、1 年次～4 年次の全学年にわたり、少人数によるゼミナール形式の演習科目を配置し、4 年間一貫のゼミナール教育をおこなっています。大学ではよく「ゼミ」と呼ばれます。こうしたゼミナールは、1 年次春学期に《NGU 教養スタンダード科目》で開講される「基礎セミナー」で始まり、さらに専門の《演習科目》には、2 年次の「専門基礎演習」、3 年次の「現代社会演習 1」、4 年次の「現代社会演習 2」、そして現代社会演習での研究指導を受けて作成する「卒業研究」があります。

また、ゼミナールでは、大学・学部における学修のそれぞれの段階で、ゼミ担当の教員による指導のもと、自分の問題関心を深め、課題を発見し、研究や討論をとおして課題を解決しながら自分の能力を向上させていくことになります。その指導教員は、あなたにとって「クラスアドバイザー（クラス担任）」ですので、学修のこと、学生生活のこと、将来のことなど、何でもいいですから気軽に相談してください。また、その中では、指導教員との交流だけではなく、多くの友人関係が育まれますので、そうすれば、ゼミナールは、きっと、あなたにとって大学生活の大切な思い出になると思います。

2) 演習科目の履修にあたって

以下では、各演習科目＝ゼミナールの内容とその履修にあたっての注意事項などについて説明しますのでよく確認してください。

① 基礎セミナー

1 年次春学期の「基礎セミナー」は、大学・現代社会学部での学修への導入・基礎教育であり、2 年次以上の専門的学修の準備段階となる必修科目です。そこでは、名古屋学院大学に親しんでもらうとともに、大学での学修を体験的に理解し、大学生活に必要なアカデミックスキルを身につけてもらいます。なかでも、a) 大学での学び方、b) 文献資料の調査・検索のしかた、c) レジюме・レポートの作成のしかた、d) 報告・発表やディスカッションの工夫、などのスキルや能力の修得は必須ですのでがんばりましょう。

② 専門基礎演習

2 年次の「専門基礎演習」は、1 年次に身につけた「学びの技法」を専門的学修や学問に有機的に結びつけることを目的としています。特に、3 年次以降の学修や専門的研究ならびに「現代社会演習 1・2」の準備や土台づくりとして次のような 5 つの力を身につけることをめざします。

- a) 課題を発見する力 b) 自分を表現する力 c) とともに議論する力
- d) 問題を解決する力 e) 実践や行動する力

このゼミナールは、講義で学んだ専門的知識を生かしながら、さまざまな問題について話し合い、議論をたたかわせ、現代社会へのアプローチを広げ、関心を深め、お互いに自分の課題テーマを見いだす場となります。従って、ゼミナールの時間や活動には必ず出席しなければなりません。

「専門基礎演習」の履修

「専門基礎演習」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。

③ 現代社会演習 1

3 年次から 4 年次にかけての「現代社会演習 1」、「現代社会演習 2」そして「卒業研究」は、現代社会学部での学修の総仕上げになります。まず 3 年次の「現代社会演習 1」では、ゼミナール担当教員の指導のもとで専門的学修をさらに進め、自分の研究課題を追究します。このときには、現代社会学部の特色である「現代社会を学ぶアイテム」や「アクティブな学び」が役に立つはずです。また、ここでは、「現代社会フォーラム」参加に向けた作業、社会見学やフィールドワーク、ゼミ合宿やゼミ旅行、および進路相談や就職活動に向けた準備など、さまざまな行事やゼミ活動もおこ

なわれます。そして、終了時には、自分の研究課題についてまとめた研究報告書を作成します。この研究報告書を提出しないと、4年次の「現代社会演習2」を履修できませんので気をつけてください。

「現代社会演習1」の履修

「現代社会演習1」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。なお、その履修にあたっては、次の2つの要件をクリアしていなければなりませんので、十分に注意してください。

- ① 2年次の終了時点で、40単位以上を修得していること
- ② 「基礎セミナー」の単位を修得していること

④ 現代社会演習2と卒業研究

4年次の「現代社会演習2」でも、ゼミナール担当教員の指導のもと、専門的学修の仕上げとともにゼミナールでの研究成果のまとめをおこないます。また、同時進行で、「卒業研究」に向けた論文の作成指導もおこなわれます。この指導のもとで論文を書き上げ、提出すると、「卒業研究」の単位が付与されます。この4年次のゼミナールでも、さまざまな行事やゼミ活動が展開され、さらに就職活動に対する支援や就職相談も継続しておこなわれます。

「現代社会演習2」（「卒業研究」の指導も含む）の所属は、原則として「現代社会演習1」からの所属を継続することになります。

履修モデル

現代社会学部は、以下のような3つの履修モデルを提示しますので、卒業後の進路や希望する就職先などを念頭に、履修する科目を選択し、系統的な学修を進めるための参考にしてください。

「民間企業」モデル					
将来めざす人材像	わが国の経済社会や中部圏の発展を支えるため、民間企業やビジネスの世界で生きる社会的教養と経済社会に関する専門知識を身につける。				
履修モデルの考え方と履修科目	● 専門基礎科目（6科目のうち4科目8単位必修、残り2科目も履修指定） ● 基幹科目（経済に近い社会学分野、経済学・経済政策分野、法律・地域分野） ：社会学理論、社会政策論、経済社会学、現代経済分析、経済政策論、現代産業論、日本経済入門、民法入門、名古屋都市論、社会統計学入門 ● 展開科目（おもにく現代経済と企業>と法律・政策分野から選択し、履修） ：現代経済学、統計学、金融論、国際経済学、日本経済論、日本経済史、企業経済研究、地域経済論、ものづくり経済論、起業経営論、社会的企業論、企業研究1・2、労働経済学、環境経済学、財政学、公共経営論、都市政策論、社会生活と法1・2、商法、会社法 ● 関連科目 ：スキル系科目、<留学&インターンシップ> 社会体験インターンシップ ◇現代社会を学ぶアイテム <table border="0"> <tr> <td><現代企業&イノベーション></td><td><都市創造マネジメント></td></tr> <tr> <td><コミュニケーション&心理></td><td><観光プロデュース&まちづくり></td></tr> </table>	<現代企業&イノベーション>	<都市創造マネジメント>	<コミュニケーション&心理>	<観光プロデュース&まちづくり>
<現代企業&イノベーション>	<都市創造マネジメント>				
<コミュニケーション&心理>	<観光プロデュース&まちづくり>				

「社会性の高いビジネス」モデル					
将来めざす人材像	ソサエティや地域、人間関係、家族などの場面にかかわるビジネスや社会性の高い企業・組織で活躍できる専門知識を身につける。				
履修モデルの考え方と履修科目	● 専門基礎科目（6科目のうち4科目8単位必修、残り2科目も履修指定） ● 基幹科目（社会学分野、経済学分野、法律・地域分野） ：社会学理論、家族社会学、社会心理学、文化人類学、経済社会学、現代経済分析、現代産業論、日本経済入門、社会統計学入門 ● 展開科目（おもに＜人間社会と心理＞と＜社会生活と地域＞から選択し、履修） ：コミュニケーション論、メディア論、経済社会と倫理、福祉社会論、現代社会と人間、ヒューマンサービス論、産業・組織心理学、集団行動の心理学、キャリアと人間発達、カウンセリング論、社会保障論 - 情報社会論、セルフプロデュース論、家族と法、地域社会と法、地域コミュニティ論、観光まちづくり論、ひとまちづくり論、都市デザイン論 ● 関連科目（社会調査士の資格取得をめざす） ：＜スキル&社会調査＞、＜留学&インターンシップ＞ 社会体験インターンシップ ◇現代社会を学ぶアイテム <table border="0"> <tr> <td>＜コミュニケーション&心理＞</td><td>＜ライフプラン&家族＞</td></tr> <tr> <td>＜ヒューマンケア&共生＞</td><td>＜コミュニティデザイン＞</td></tr> </table>	＜コミュニケーション&心理＞	＜ライフプラン&家族＞	＜ヒューマンケア&共生＞	＜コミュニティデザイン＞
＜コミュニケーション&心理＞	＜ライフプラン&家族＞				
＜ヒューマンケア&共生＞	＜コミュニティデザイン＞				

「公共・公益・民間非営利」モデル					
将来めざす人材像	公共機関、公益法人、NPOなどの民間非営利団体で活躍できる基礎的教養と現代社会に関する専門知識を身につける。				
履修モデルの考え方と履修科目	● 専門基礎科目（6科目のうち4科目8単位必修、残り2科目も履修指定） ● 基幹科目（公共に近い社会学分野、経済学・経済政策分野、地域・法律分野） ：社会学理論、家族社会学、社会心理学、文化人類学、社会政策論、経済社会学、現代経済分析、経済政策論、民法入門、名古屋都市論、社会統計学入門 ● 展開科目（おもに＜社会制度と政策＞と地域・法律分野から選択し、履修） ：財政学、政治学1、政治学2、行政学、公共経営論、都市政策論、文化政策論、行政法、共生社会と法、社会生活と法1・2、商法、会社法、経済社会と倫理、福祉社会論、地域経済論、社会保障論、情報社会論、地域社会と法、地域コミュニティ論、観光まちづくり論、ひとまちづくり論、都市デザイン論 ● 関連科目 ：スキル系科目、＜留学&インターンシップ＞ 社会体験インターンシップ ◇現代社会を学ぶアイテム <table border="0"> <tr> <td>＜都市創造マネジメント＞</td><td>＜観光プロデュース&まちづくり＞</td></tr> <tr> <td>＜コミュニティデザイン＞</td><td>＜ヒューマンケア&共生＞</td></tr> </table>	＜都市創造マネジメント＞	＜観光プロデュース&まちづくり＞	＜コミュニティデザイン＞	＜ヒューマンケア&共生＞
＜都市創造マネジメント＞	＜観光プロデュース&まちづくり＞				
＜コミュニティデザイン＞	＜ヒューマンケア&共生＞				

卒業要件

卒業要件単位の修得

現代社会学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教	34単位以上 (必修・選択必修 16単位を含む)	
	自己理解と自己開発		
	情報		
	言語とコミュニケーション ※1		
	歴史・文化の理解		
	社会の理解		
	自然・人間・生命の理解		
	地域の理解		
	教職 ※2		
専門基礎科目 基幹科目		28単位以上 (必修8単位 を含む)	80単位以上
展開科目 関連科目	人間社会と心理、経済社会と企業、社会制度と政策、社会生活と地域、スキル&社会調査、留学&インターンシップ	36単位以上	
演習科目		16単位	
自由選択(フリーゾーン) ※3			10単位以上
合計			124単位以上

[注記]

※1 第2語学2単位分の選択必修あり。

※2 教職課程加入者のみ履修可。8単位までを卒業要件単位とすることができる。(8単位を超える分については、自由選択科目の単位とする。)

※3 科目区分を問わず、自由に選択できる。

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング
	必修	選択		
キリスト教				
キリスト教概説1	2		1	AC1101
キリスト教概説2	2		1	AC1102
聖書学		2	2	AC2301
キリスト教倫理		2	2	AC2302
キリスト教史		2	1	AC1301
自己理解と自己開発				
基礎セミナー	2		1	AU1101
発展セミナー		2	1	AU1301
キャリアデザイン1a		2	1	AU1302
キャリアデザイン1b		2	1	AU1303
キャリアデザイン2a		2	2	AU2301
キャリアデザイン2b		2	2	AU2302
ボランティア学		2	1	AU1304
ボランティア演習		2	1	AU1305
インターンシップ1		2	1	AU1306
インターンシップ2		2	1	AU1307
情報				
情報処理基礎	2		1	AI1101
言語とコミュニケーション				
日本語表現	2		1	AV1101
日本語表現上級		2	1	AV1301
基礎英語1	1		1	AV1102
基礎英語2	1		1	AV1103
英会話1	1		1	AV1104
英会話2	1		1	AV1105
実用英語1		1	2	AV2201
実用英語2		1	2	AV2202
情報英語1		1	2	AV2203
情報英語2		1	2	AV2204
TOEIC英語1		1	2	AV2205
TOEIC英語2		1	2	AV2206
ドイツ語1		1	2	AV2207
ドイツ語2		1	2	AV2208
フランス語1		1	2	AV2209
フランス語2		1	2	AV2210
スペイン語1		1	2	AV2211
スペイン語2		1	2	AV2212
中国語1		1	2	AV2213
中国語2		1	2	AV2214
韓国語1		1	2	AV2215
韓国語2		1	2	AV2216
歴史・文化の理解				
【教養】日本史		2	1	AW1301
【教養】世界史		2	1	AW1302
【教養】日本文学		2	1	AW1303
【教養】外国文化論		2	1	AW1304
【教養】文化人類学		2	1	AW1305
【教養】陶芸論		2	1	AW1306
【教養】陶芸演習		2	1	AW1307

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング
	必修	選択		
社会の理解				
【教養】政治学		2	1	AO1301
【教養】国際政治学		2	1	AO1302
【教養】国際関係論		2	1	AO1303
【教養】平和学		2	1	AO1304
【教養】法学		2	1	AO1305
【教養】日本国憲法		2	1	AO1306
【教養】経営学		2	1	AO1307
【教養】統計学		2	1	AO1308
【教養】教育学		2	1	AO1309
自然・人間・生命の理解				
【教養】哲学		2	1	AN1301
【教養】心理学		2	1	AN1302
【教養】数学		2	1	AN1303
【教養】物理学		2	1	AN1304
【教養】化学		2	1	AN1305
【教養】地学		2	1	AN1306
【教養】生物学		2	1	AN1307
【教養】環境学		2	1	AN1308
【教養】情報処理論		2	2	AN2301
【教養】スポーツ健康科学		2	1	AN1309
【教養】スポーツ初級a		1	1	AN1310
【教養】スポーツ初級b		1	1	AN1311
【教養】スポーツ中級a		1	2	AN2302
【教養】スポーツ中級b		1	2	AN2303
地域の理解				
まちづくり学		2	1	AR1301
まちづくり演習		2	1	AR1302
上級まちづくり演習		2	2	AR2301
教職				
教職論		2	1	AQ1301
教育原理		2	1	AQ1302
教育心理学概論1		2	1	AQ1303
教育心理学概論2		2	1	AQ1304
教育制度論		2	1	AQ1305
特別活動論		2	2	AQ2301
教育の方法と技術		2	2	AQ2302
道徳教育論		2	2	AQ2303
生徒・進路指導論		2	2	AQ2304
教育相談		2	2	AQ2305

現代社会科学 専門科目

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
専門 基礎 科目	社会学入門	2		1	GD1101
	現代社会入門		2	1	GD1301
	経済学入門	2		1	GD1102
	法学入門	2		1	GD1103
	地域政策入門	2		1	GD1104
	社会リサーチ入門		2	1	GD1302
基幹 科目	社会学理論		2	2	GD2301
	家族社会学		2	2	GD2302
	社会心理学		2	2	GD2303
	文化人類学		2	2	GD2304
	社会政策論		2	2	GD2305
	経済社会学		2	2	GD2306
	現代経済分析		2	2	GD2307
	経済政策論		2	2	GD2308
	現代産業論		2	2	GD2309
	日本経済入門		2	2	GD2310
	民法入門		2	2	GD2311
	名古屋都市論		2	2	GD2312
	社会統計学入門		2	2	GD2313
	プロジェクト演習A		2	1	GD1303
	プロジェクト演習B		4	2	GD2314
展開 科目	人間社会と心理				
	コミュニケーション論		2	2	GD2315
	メディア論		2	2	GD2316
	経済社会と倫理		2	3	GD3301
	福祉社会論		2	2	GD2317
	共生社会と法		2	2	GD2318
	現代社会と人間		2	2	GD2319
	ヒューマンサービス論		2	3	GD3302
	産業・組織心理学		2	3	GD3303
	集団行動の心理学		2	2	GD2320
	キャリアと人間発達		2	2	GD2321
	カウンセリング論		2	2	GD2322
	経済社会と企業				
	現代経済学		2	2	GD2323
	統計学		2	2	GD2324
	金融論		2	2	GD2325
	国際経済学		2	3	GD3304
	日本経済論		2	2	GD2326
	日本史概説		2	1	GD1304
	外国史概説		2	1	GD1305
	日本経済史		2	3	GD3305
	企業経済研究		2	3	GD3306
	ものづくり経済論		2	3	GD3307
	起業経営論		2	3	GD3308
	社会的企業論		2	3	GD3309
	企業研究1		2	2	GD2327
	企業研究2		2	2	GD2328
	労働経済学		2	3	GD3310
	環境経済学		2	2	GD2329
	社会制度と政策				
	財政学		2	2	GD2330
	政治学1		2	2	GD2331
	政治学2		2	2	GD2332
	行政学		2	3	GD3311
	公共経営論		2	3	GD3312
	都市政策論		2	2	GD2333
	文化政策論		2	2	GD2334
	行政法		2	3	GD3313

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
展開 科目	社会生活と法1		2	2	GD2335
	社会生活と法2		2	2	GD2336
	商法		2	3	GD3314
	会社法		2	3	GD3315
	国際法1		2	2	GD2337
	国際法2		2	2	GD2338
	国際政治		2	3	GD3316
	社会生活と地域				
	社会保障論		2	2	GD2339
	情報社会論		2	2	GD2340
	セルフプロデュース論		2	2	GD2341
	家族と法		2	2	GD2342
	地域社会と法		2	3	GD3317
	地理学		2	2	GD2343
	地誌学		2	2	GD2344
	自然地理学		2	2	GD2345
	地域経済論		2	3	GD3318
	地域コミュニティ論		2	3	GD3319
	観光まちづくり論		2	2	GD2346
	ひとまちづくり論		2	2	GD2347
	都市デザイン論		2	3	GD3320
関連 科目	スキル&社会調査				
	デジタルプレゼンテーション		2	1	GD1306
	データ表現技法		2	1	GD1307
	社会調査法1		2	2	GD2348
	社会調査法2		2	2	GD2349
	現代社会調査		2	2	GD2350
	社会調査実習		4	3	GD3321
	スキル開発初級		1	1	GD1308
	スキル開発中級		2	1	GD1309
	スキル開発上級		4	1	GD1310
	留学&インターンシップ				
	国際理解1		4	1	GD1311
	国際理解2		4	1	GD1312
	国際理解3		4	1	GD1313
	国際理解4		4	1	GD1314
	国際理解5		2	1	GD1315
	国際理解6		2	1	GD1316
	国際理解7		2	1	GD1317
	国際理解8		2	1	GD1318
	社会体験インターンシップ1		2	1	GD1319
	社会体験インターンシップ2		2	1	GD1320
	演習 科目	専門基礎演習	4	2	GD2101
		現代社会演習1	4	3	GD3101
		現代社会演習2	4	4	GD4101
		卒業研究	4	4	GD4102

選択必修科目

8分野から1分野を選択し、1と2を履修しなければなりません。

実用英語1・2	フランス語1・2
情報英語1・2	スペイン語1・2
TOEIC英語1・2	中国語1・2
ドイツ語1・2	韓国語1・2